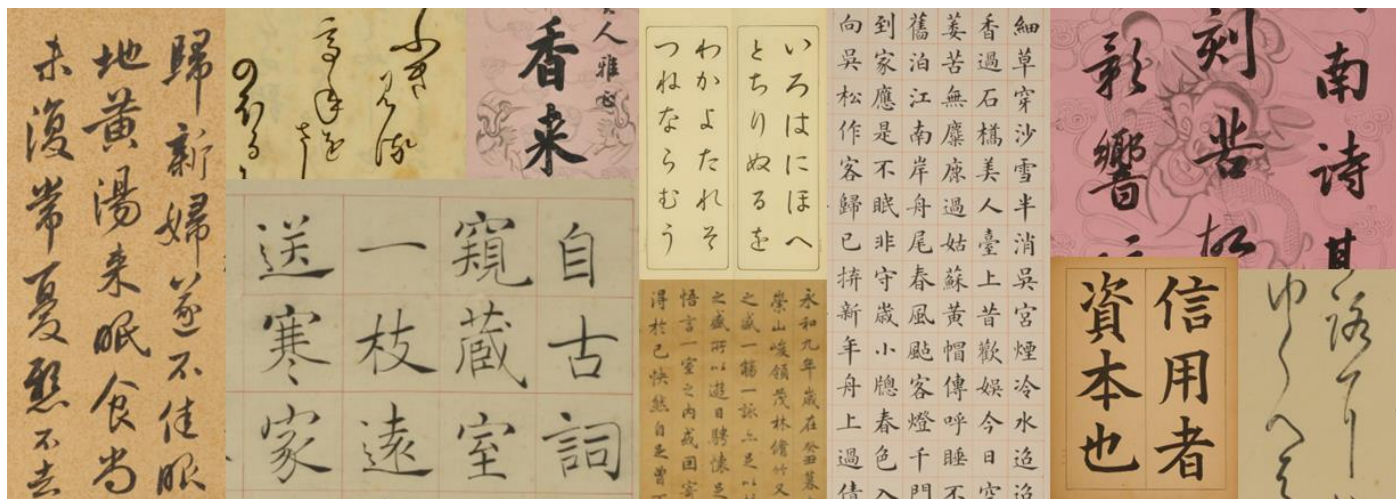


令和4年(2022)6月12日現在

観峰館 令和4年度 夏季企画展

「きれいな字—近代中国と日本の書—」

開催のお知らせ



今回の企画展は、字を「書く」機会の少なくなった現代の日本人に「書」や「習字」に親しむ機会を提供することを目的とした展覧会です。

本展では、観峰館が収蔵している資料の中から「きれいな字」で書かれた作品、すなわち字の形が整っていて、見ていて快く感じられるような書風の文字を特集します。近代中国の官僚たちや、近代の日本人書家が書いてきた「きれいな字」をお楽しみいただければ幸いです。

日 時：2022年7月2日(土)～9月4日(日)

10時00分～17時00分

(入館は16時00分まで)

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)

主 催：公益財団法人 日本習字教育財団 観峰館

作品総数：50点(うち初公開19点)

※会期中の展示替えはありません。

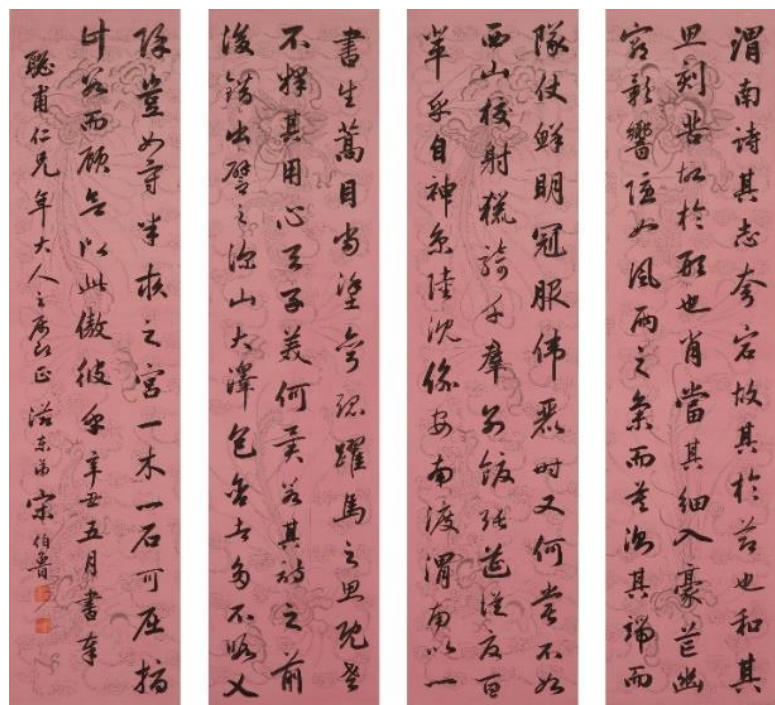
〈本展の見どころ〉

- ・現代の日本人にとっても親しみやすい楷書／行書の作品を中心に展示します。
- ・中国の書をはじめ、日本の書や教科書など、観峰館が収蔵している作品を幅広く展示します。

第1部 近代中国の書

観峰館は様々な資料を収蔵していますが、それらの中で最も大きな割合を占めているのが、清時代後期～中華民国初期頃（概ね 1800 年代～1940 年頃）に制作された肉筆の書や絵画です。これらの資料だけでも 20,000 点に及びます。その内、書は約 3,000 点です。

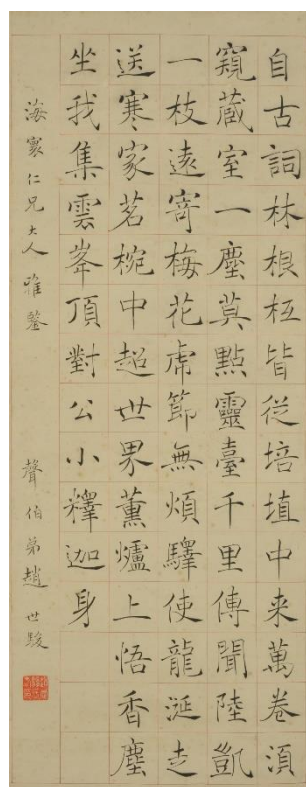
第1部では、これらの中から、近代中国の官僚たちが楷書や行書で書いた作品と、手本を見て写した臨書作品をご紹介します。



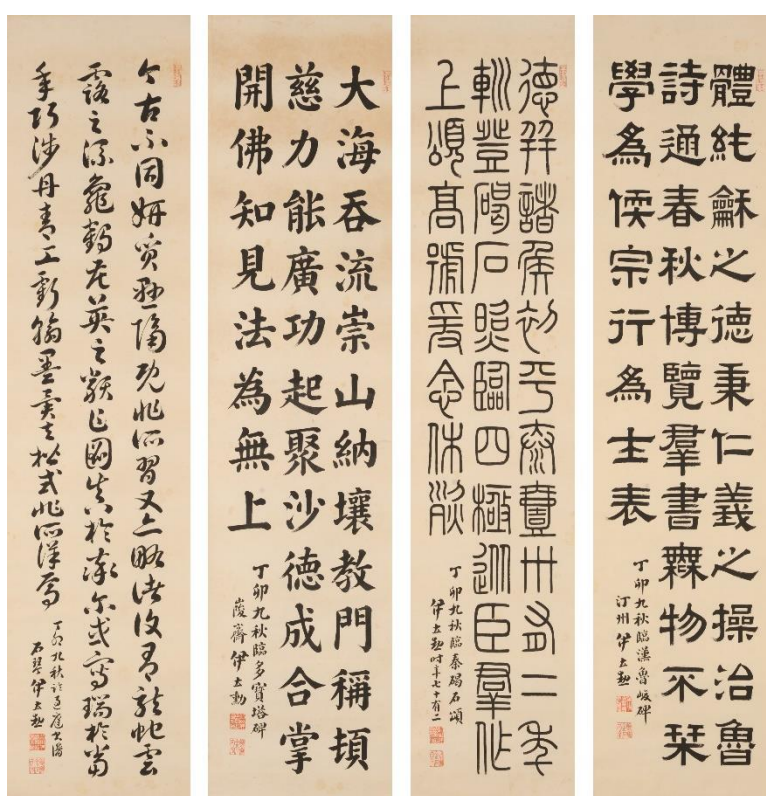
宋伯魯《行書陸放翁詩鈔序語四屏》
清時代末期 光緒 27 年（1901）



沈衛《楷書姜夔除夜自石湖歸苕溪詩軸》
中華民國 12 年（1923）



趙世駿《楷書曾幾詩軸》
清時代末期～中華民国初期



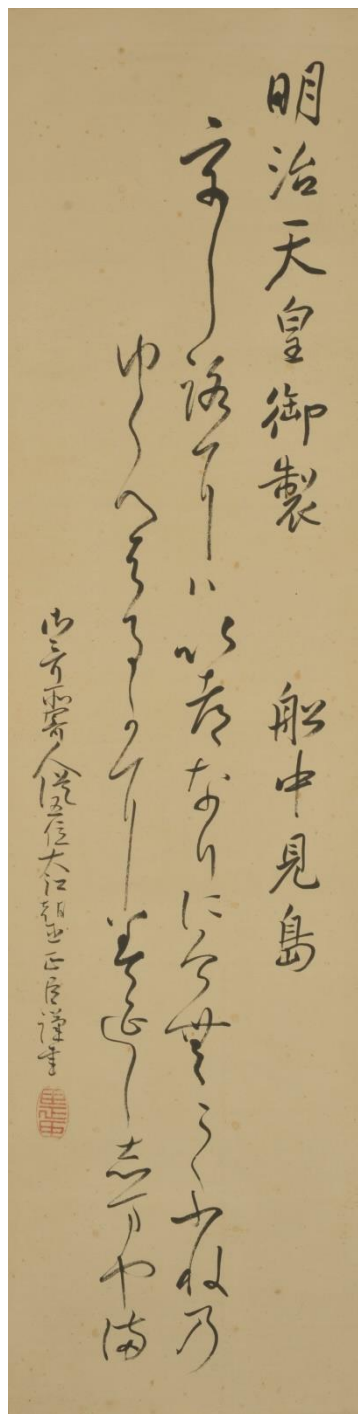
伊立勳《臨書四屏》中華民國 16 年（1927）

第2部 日本の書

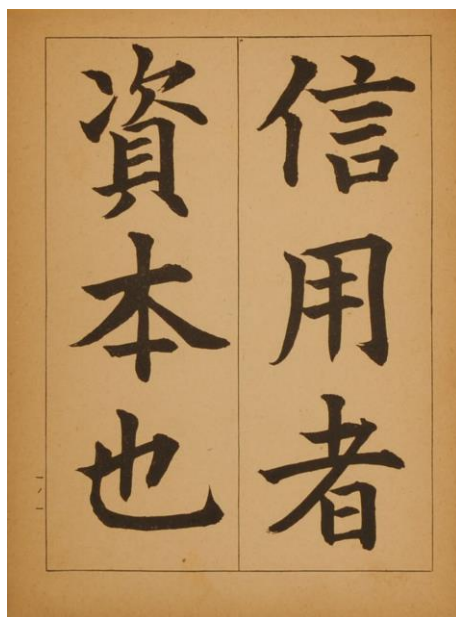
観峰館が収蔵している日本の書画は100点ほどです。中国の書画を約20,000点収蔵していることに比すれば少ないものの、この中には、江戸時代から近代日本の著名な書家による作品が含まれています。

また、肉筆ではありませんが、書を学ぶための手本として用いられた和本／教科書類の資料を10,000冊以上収蔵しています。これらの資料によって、近代の日本人がどのような書を手本として学んできたのかを追うことが出来ます。

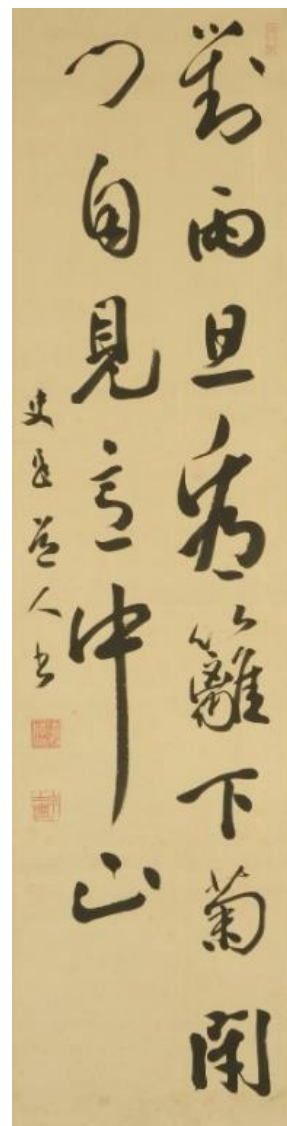
これらの資料の中から、本展では、日本の人々が「きれいな字」の手本として用いた教科書や、それらの執筆に携わった日本人書家の作品を中心に展示します。



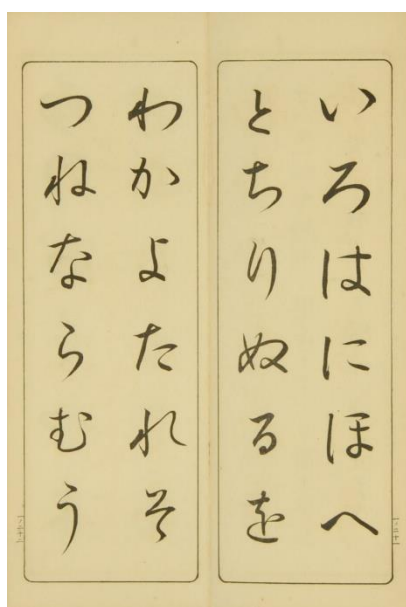
阪正臣
《明治天皇御製和歌「船中見島」》
明治～大正時代



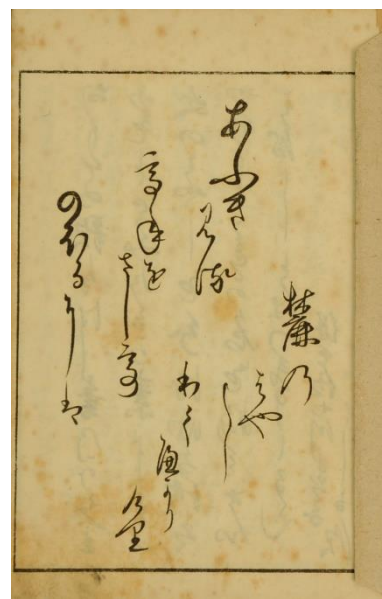
辻本史邑《青年手習教範》卷一
昭和13年（1938）



辻本史邑《行書七言對句軸》
昭和時代



阪正臣《現代女子習字帖》
昭和2年（1927）



小川直子 著／小野鷺堂 書
《女子消息 文のはやし》
大正元年（1912）

関連イベント

夏季展の内容にあわせ、下記のイベントを行います。

※関連イベントは、新型コロナウイルスの拡大状況により延期／中止する場合があります。

最新情報をホームページでご確認下さい。

①Web 内覧会

日 時：7月1日（金）16時00分～17時00分

担 当：根来 孝明（観峰館 学芸員）

※新館特別展示室より YouTube でライブ配信を行います。

URL：<https://youtu.be/0gN2SP7N6s0>



Web 内覧会はこちら！

②土曜講座

1 「きれいな字の系譜—中国の書を中心に—」

日 時：7月16日（土）13時30分～14時30分

担 当：根来 孝明（観峰館 学芸員）

定 員：20名（要予約）

2 「きれいな字を学ぶ—日本の書を中心に—」

日 時：9月3日（土）13時30分～14時30分

担 当：根来 孝明（観峰館 学芸員）

定 員：20名（要予約）

③夏休み子ども博物館

期 間：2022年7月下旬～8月下旬

内 容：観峰館クイズラリーほか

ギャラリートーク&ミニコンサート 開催いたします！



8月7日ミニコンサート演奏者：エンキ氏

日 時：8月7日（日）13時30分～15時00分

演奏者：エンキ氏（中国琵琶奏者）

展示解説：根来 孝明（観峰館 学芸員）

定 員：30名（要予約）

同時開催（夏季平常展）

いろいろ千字文^{せんじもん}

会 場：本館4階展示室

概 要：習字の基本テキストである

「千字文」を特集します。



細井広沢《広沢先生千字文》

江戸時代・天保4年（1833）版

中国絵画 山水竹石図

会 場：本館5階展示室

概 要：中国の山水画や竹石図を

中心に展示します。



顧麟士《山水図扇面》

清時代末期 光緒32年（1906）

～「書の文化にふれる博物館」 観峰館について～



観峰館は「書の文化にふれる博物館」として、公益財団法人日本習字教育財団が、書道文化の普及を目的に運営する博物館です。主な収蔵品は、日本習字創立者の原田観峰（1911～1995）が情熱を傾けて収集した2万5千点におよぶ中国近現代書画や碑版法帖のほか、日本の書画や和本類など、書の文化を理解する上で非常に貴重なものです。



本館 1 階展示室



たんぼくけいせいでん
「澹泊敬誠殿」復元展示

常設展示では、清朝の康熙皇帝（1654～1722）が揮毫した扁額が掛かる離宮内部を再現した「避暑山莊展示室」ほか、実際に拓本の採拓ができる「復元石碑」、書体の変遷を紹介する「書の歴史」などで中国書法文化を紹介しています。

新館特別展示室では、多彩な企画展を開催します。また中国建築風のギャラリー「書院展示室」や欧米資料を集めた「西洋アンティーク室」など見どころが満載です。

観峰館 概要

名 称 : 観峰館

運営母体：公益財団法人 日本習字教育財団

住 所 : 〒529-1421 滋賀県東近江市五個荘竜田町 136

電話番号：0748-48-4141 (FAX：0748-48-5475)

ホームページ：<https://kampokan.com/>

アクセス情報

①電車・バスをご利用の場合

JR 琵琶湖線「能登川」駅下車

→近江鉄道バス（八日市駅行き）で
「金堂竜田口」下車→徒歩約 15 分
(全所要時間約 25 分)

②お車（名神高速）をご利用の場合

- ・名古屋方面 / 彦根 IC から国道 8 号で
南西（大津方面）へ約 16 キロ
- ・大阪方面 / 竜王 IC から国道 8 号で
北東（彦根方面）へ約 16 キロ

③タクシーをご利用の場合

JR 琵琶湖線「能登川」駅

東口タクシー乗り場から乗車

約 10 分 (2,200 円程度)

※運転手さんに「観峰館裏門（国道の反対側の入り口）まで」とお伝えください。



本展に関するお問い合わせ

公益財団法人日本習字教育財団 観峰館

〒529-1421 滋賀県東近江市五個荘竜田町 136

TEL：0748-48-4141／FAX：0748-48-5475

Email：kampokan@nihon-shuji.or.jp

展示担当者：根来 孝明（観峰館 学芸員）